

# 兎島ジーンズストリート構想

## ～ “挑戦” 地場産業を用いた地域再生～

末 佐 俊 治  
( 兎島商工会議所 )  
業務課 主事

### 目 次

- |                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1. はじめに～繊維の町 兎島、国産ジーンズ発祥の地 兎島～ ..... | 71 |
| 2. 兎島ジーンズストリート推進協議会の発足 .....         | 71 |
| 3. 空き店舗への出店誘致～兎島ジーンズストリート誕生～ .....   | 73 |
| 4. 販売戦略について .....                    | 77 |
| 5. 多くのお客様に来ていただくために .....            | 77 |
| 6. 効果・課題 .....                       | 79 |
| 7. おわりに .....                        | 80 |

## (要 旨)

日本全国、特に地方で深刻な問題となっているシャッター商店街。人通りのない閑散としてしまった商店街には空き店舗が並び元気を感じられない。岡山県倉敷市児島の「味野商店街」は、昭和 30～40 年代、町の中心地として連日多くの人で賑わい活気があった。しかし商店主の高齢化、後継者問題、消費者のニーズに対応出来なくなった等の要因により店舗を閉めるケースが多くなっていた。地域の再生、更に未来に向けた発展のため、児島の地場産業である繊維産業（主にジーンズ）を目玉に空き店舗対策を行い、街全体が元気になれるように、以前の賑わい、笑顔を取り戻す為に「児島ジーンズストリート構想」は立ち上がった。日本のものづくりは世界に誇れるものである。我々は日本一になれば世界一になれると信じ、世界一の名物商店街を目標に掲げ、世界に誇れる児島の繊維産業を発信していくために活動していく。構想開始から 7 年。我々の“挑戦”について述べさせていただく。

## 1. はじめに～繊維の町 児島、国産ジーンズ発祥の地 児島～

岡山県倉敷市児島地区は日本最古の歴史書「古事記」の国生み神話の中で大八島（淡路島、四国、隠岐、九州、壱岐島、対馬、佐渡島、本州）に次ぐ 9 番目の島として誕生しました。島であった児島が自然に運ばれる土砂や干拓による新田開発により 1618 年頃北西部の一部が本土と連なりました。干拓地ということもあり塩分が強く農作物の栽培に適さない土壌ということから塩気に強い『綿花』の栽培を開始しました。

古くは江戸時代、由加山が金比羅山と並ぶ信仰地として栄えた時代に、由加山の参詣客が児島の真田紐や小倉織などを買い求めた時代から繊維と密接に結びつき、やがて明治・大正時代にかけて、足袋や袴地の製造に力を注ぎ、昭和・平成には学生服や作業着の製造へと変遷を辿りながら、『繊維の町 児島』の名が全国に広がりました。

紡績業、撚糸業、染色業、整理業、ミシン業者やボタン業者まで、様々な繊維関連業者が集まる一大集積地となった児島。1964 年（昭和 39 年）東京オリンピック開催を契機に様々な文化、風俗が流れ込みます。マクドナルドやコカコーラ等の食料品や音楽、そしてブルージーンズを始めとする衣料が流行。まさに日本中がアメリカンドリームに湧いた時代、若者はジーンズを求めて、当時米軍の放出品として流入のあったジーンズを履いた。

1957 年輸入衣料解禁を機に 1958 年児島のマルオ被服にて輸入、受託生産を開始。試行錯誤を繰り返しながら 1965 年製品として国産ジーンズ第 1 号を販売しました。『国産ジーンズ発祥の地 児島』といわれる所以です。

有史以来 1300 年の歴史を持つ児島。綿花栽培から始まり、様々な繊維産業に移り変わりながら磨いた技術や確かな目。それらをどのように『児島ジーンズストリート構想』に活かしていったのか、我々の取組みをまとめていく。

## 2. 児島ジーンズストリート推進協議会の発足

『国産ジーンズ発祥の地 児島』『ジーンズの聖地』等のキーワードが町と各企業の発信により、多くのメディアに取り上げられ、児島を訪れるジーンズファンは増加傾向にありました。しかし当時販売店はほとんどなく、児島に来て「ジーンズを買う場所がない」「ジーンズの町が感じられない」等の声が次第に増えてきました。

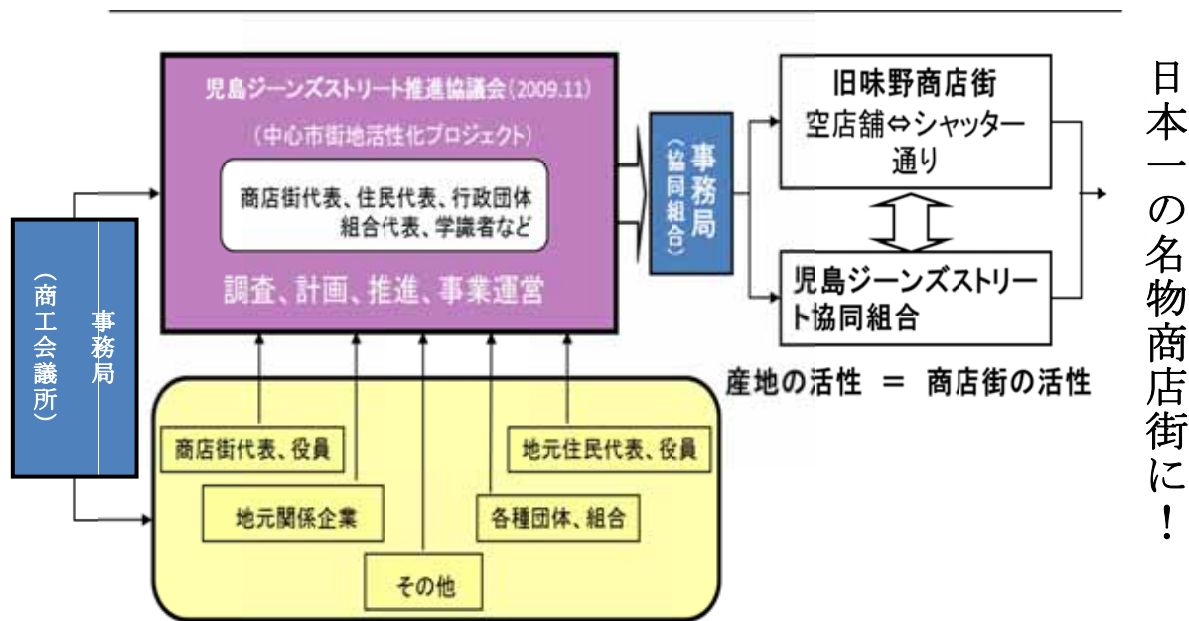
一方、児島の中心地区に目を向けると、郊外への大型ショッピング施設や車社会の影響、商店主の高齢化、後継者問題、消費者のニーズに対応出来なくなった等の要因により休廃業に追い込まれる商店も数多くありました。特に大きな影響を受けたのが

舞台となる『味野商店街』です。

味野商店街は隆盛を極めた昭和 30～40 年頃、商店数が約 250 店舗。通りを人々が肩をぶつけながら歩かざるをえないほど栄えていました。しかし様々な要因により衰退が進み、空き店舗が並ぶシャッター商店街となっていました。



この商店街に対し、「シャッターを開きたい」「昔のように人に来て欲しい」「笑顔を取り戻したい」「もう一度商売をしたい」「この町をなんとかしよう！」等の意見が高まり、商店街、地域団体、行政、商工会議所などからなる『児島ジーンズストリート推進協議会』が 2009 年 11 月に発足しました。



なぜジーンズだったのかと問われると、児島が『国産ジーンズ発祥の地』であったこと、ジーンズがファッションとして世界的に愛されていること、老若男女問わず幅広い世代に親しまれていること、確かな技術と目を持った職人が多くいたこと等、これほどまでのコンテンツが揃っていたことと地域の方々からの生の声があったことが一番の要因だと考えます。

### 3. 空き店舗への出店誘致～児島ジーンズストリート誕生～

児島ジーンズストリート発足時、味野商店街にはジーンズを扱う店が2件のみという状況でした。まず行ったのが味野商店街における空き店舗の調査です。1件1件全ての空き店舗に声を掛け意見を聞きました。

そこで出た意見が、

- ・店舗は車庫や倉庫で使っている。
- ・2階や奥を住居施設にしているので他人に干渉されたくない。
- ・ファッションが好きな人はチャラチャラしているイメージがある。
- ・タバコを吸う人は絶対だめ。
- ・管理者がすでに県外に移住していて連絡先が分からない。

などでした。

なかなか店舗を所有している高齢者の方々には構想を理解していただけなく、安易には受け入れられないという状況が続き、粘り強い交渉が必要とされました。

その後地域の方々の協力を得ながら数店の空き店舗が候補にあがり、出店者の誘致を開始しました。児島に在籍する約40のメーカー全てに声掛けをするも、現状の商店街の状況を理解している人ばかりでしたので、こちらも困難を極めました。また、児島の縫製業者の多くはOEM生産で成り立っている所がほとんどで、自社ブランドを立ち上げてリスクを負ってまでまちづくりをする、店舗を立ち上げるという部分でも出店者誘致の大きな壁となりました。

出店者のリスクを少しでも軽減させるべく、行政から補助金（空き店舗対策補助金 補助率1/3 上限100万円 改装費などに使用）の提案を受け、所有者との家賃交渉を行い、商工会議所、関係各所が全面的にPRするなど初めの出店者誘致にはかなりの力を必要としました。

全国各地で疲弊している商店街が広がる中、空き店舗がシャッターを開けるといふ現象は、マスコミが取り上げる格好の材料となりました。それに伴い、全国のジーンズ愛好家や観光客が集まってくる。ローカルだったものが全国的なものに広がっていく。各方面に取り上げられ、出店者の口コミ等が広がり、徐々にではあるが出店希望者は増えていきました。それに伴い、商店街から空き店舗の活用を希望する者も増え、年間5店舗ほどの出店が出来るようになりました。

また地域の方々と出店者との交流会、意見交換の場を定期的に行うことにより理解を獲得するにつれ、旧商店街の方々がストリートに立ち、観光客に道案内をしてくれたり、味野商店街の歴史を語ってくれたりと、まさに新旧が一体となった新しい町が誕生しました。



店舗が借りられない時はシャッターをペイントして雰囲気作り



構想開始から 7 年。現在ジーンズ関連ショップが 30 店。飲食店 4 店。体験施設 1 店の 35 店が展開中。

ジーンズストリート出店者沿革		
ジーンズストリート発足以前		
店舗名	出店年度	業種
桃太郎ジーンズ味野店	H20以前	ジーンズ
わいわい屋	H20以前	飲食(ラーメン)
Womb	H21年度	雑貨
ダニアジャパン	H21年度	ジーンズ
ジーンズストリート発足後		
店舗名	出店年度	業種
S A I O	H21年度	ジーンズ
pure blue japan	H22年度	ジーンズ
MuuSAN63	H22年度	ジーンズ
倉敷天領デニム	H22年度	ジーンズ
カミカゼアタック	H22年度	ジーンズ
Senio	H22年度	ジーンズ
NEIGHBOR	H23年度	飲食(カフェ) 雑貨
JEANZOO	H23年度	雑貨
HIGH ROCK	H23年度	ジーンズ
Denim Closet	H23年度	ジーンズ
MUTSUBOAN	H24年度	飲食(カフェ) 雑貨
児島ジーンズ	H24年度	ジーンズ
EDGE OF LINE	H24年度	ジーンズ
RAMPUYA 藍畑	H24年度	藍染体験
Seventh Sense Folklore	H25年度	シャツ
IRON HEART KOJIMA BRANCH	H25年度(H27年度移転)	ジーンズ
PAZ ALAPAAP	H25年度	帆布、ジーンズ
林檎堂	H25年度	ジーンズ他
ジャパンプルージーンズ	H25年度	ジーンズ
BLUXE	H25年度	ジーンズ
kojima market place	H26年度	ジーンズ
SHIFTO	H26年度	ジーンズ
WHOVAL	H26年度	ジーンズ
commonplace	H26年度	ジーンズ
VALIANT ELEPHANT	H26年度	Tシャツ
RIVETS	H26年度	飲食(カフェ) 雑貨
BLUE WALL	H26年度	ジーンズ製品他
BLUE TRICK	H27年度	ジーンズ
BLUE RECORD(S)	H27年度	ジーンズ
PALLET SHOP	H27年度	ジーンズ
UNION BROS.KOJIMA	H28年度	ジーンズ
Klax - on児島本店	H28年度	ジーンズ



#### 4. 販売戦略について

児島ジーンズストリート構想開始当初から、国産であること、日本のものづくりにプライドを持ったストーリーを重要視することを念頭としています。

ストーリーといっても様々なものがあります。「綿にこだわる」「生地にこだわる」「縫製技術にこだわる」「加工技術にこだわる」「なぜ児島だったのか」「どこが他社製品と違うのか」。消費者の様々なニーズに応えるためこだわりを追求した結果、高付加価値のついた『プレミアムジーンズ』の提供ができております。そのため、大手の大量生産や安価品との差別化が実現しています。

#### 5. 多くのお客様にきていただくために

当初構想開始以前、味野商店街の年間来街者数は6~7千人。今でこそ年間15万人以上のジーンズ愛好家、観光客が訪れる名物商店街ですが、初めからそうだったわけではありません。空き店舗を解消、店舗の誘致を進めるだけでなく様々なソフト事業・ハード事業を試み、失敗と成功を繰り返してきました。ここではいくつかを紹介し

##### ■KOJIMA BLUE International Art Festival■

毎年10月に開催。KOJIMA BLUEと称し、藍（青）を使った作品を多数展示する芸術祭。作品展示のみならず、地域の方々と音楽を奏で、期間中は多くの人で盛り上がる。また歴史的建物の活用など今後の将来性も高い。期間中約1万人の集客。



### ■稲妻デニムフェス■

毎年4月に開催。国産ジーンズ発祥の地児島ならではの取組みである。全国のジーンズメーカー、ジーンズ好きが集まり、ジーンズの大即売市を行う。県内外から約6万人のジーンズ好きが集まる。



### ■デニムカラーの道路整備■

平成26年4月施工。児島ジーンズストリートの一画をデニムカラーに舗装。藍色をベースに歩道はセルヴィッチをイメージした。来街者が歩くにつれダメージが付き、本物のジーンズのように歴史を刻んでいる。



## ■インバウンド対策■

年間数多くの外国人観光客が訪れるようになり、MAPや案内看板への英語表記。免税店申請。海外メディアへの露出・発信。

## 6. 効果・課題

### ① 効果

構想開始より進める空き店舗対策。これにより町は格段に明るくなりました。明るくなったと言っても、単純に明かりが灯っただけではなく、笑顔が戻ったのです。徐々に来街者が増えるにつれ、既存の商店は元気を取り戻し、商売に意欲を出す。既存商店の方々と新規参入店の方々が情報交換し、連携している姿には感慨深いものがあります。

また、児島ジーンズストリートがジーンズを発信することにより『児島』という街にも大きな影響を与えていると考えます。

例えば、JR児島駅が平成27年6月より『ジーンズステーション児島』と命名されました。まちづくりを進める中で、児島の玄関口である児島駅の構内、階段やコインロッカー、自販機に至るまでをジーンズでラッピング、駅員はジーンズファッションを制服としています。このような取組みは全国でも初めてとなるものです。また、企業独自の取組みとして児島には『ジーンズバス』や『ジーンズタクシー』などが走っております。

平成27年6月より『ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン』において、児島は『日本のジーンズの都』として登録されるなど、これらの取組み、評価はジーンズを使ってまちづくりを推進してきたからこそその成果だと確信しております。



## ② 課題～「滞在時間が短い」

当初訪れる方々はそのほとんどがジーンズ愛好家の方ばかりでした。その為、比較的店舗での滞在時間が長く、一日ジーンズストリートに時間を注ぐという方もいました。しかし現在、数多くのメディアに取り上げられるにつれ『観光地型商店街』に移り変わろうとしています。全国各地より老若男女の方々が多く来街されます。外国人観光客も見ない日はないという状況です。その中で、観光地としての整備が急務となっています。

ジーンズストリートでは買い物をして児島以外の観光地に向かう。よく目にする光景です。多くのお客様により楽しんでいただくため、休憩所の設置、飲食店の充実。お土産の開発。トイレの設置。体験施設の充実。パビリオンの設置等、半日～1日をジーンズストリート、児島で完結していただけるような取組みが必要です。

今後飲食店や体験施設の出店者誘致。トイレや休憩所の設置における行政や地域住民の方々との折衝を強化し、問題を解決していきたい。

## 7. おわりに

寂れたシャッター商店街から起こった機運が、やがて点が線となり、面になり、広がりを持って地域住民に影響を及ぼしていく。現在児島では「児島が変わる、人が動く、街が動く」をまちづくりのテーマに掲げています。このテーマに伴う『児島ジーンズストリート構想』などの取組みにより、「町が変わるんだ」、「今変わらないと将来はない」「児島には他にはない魅力いっぱいの資源がある」「もっと自慢できる町にしよう」と地域の方々に理解してもらい、児島を住みよい町。住みたい町。誰にでも自慢できる町。そういった町にするため今後も“挑戦”を続けていく。